

生徒会の軌跡

対面式

年度初めは校内のどの活動もあわただしいが、生徒会も行事が目白押しである。まずは新入生を歓迎する対面式である。式次第は以下の通りである。

- ・新入生入場、整列
- ・校歌斉唱
- ・校長先生のお話
- ・有志による激励の言葉
- ・応援団による激励
- ・在校生代表の言葉
- ・新入生代表の言葉
- ・新入生退場

平成に入り、それまでとは違っておとなしくも、新入生への期待にあふれた雰囲気の中で会が進行されている。体育館南側に在校生がクラスごとに整列し、その中央部（二年G組と三年A組）の間隔を開けたのち、新入生が入場する。一部の在校生が整列場所を離れて、新入生の列に近づく等、一瞬異様な熱気

校長先生のお話へと続く。

式の中でいい意味でも悪い意味でも注目を集めるのが、有志による激励の言葉である。体育館南側の用具室に潜んであらかじめ準備していた軟式野球部員や硬式野球部員達の、マイクを通じての流行歌が聞こえ始めると、在校生の笑いがおこり、それまでの緊張感が一気にほぐれる。そして出演者がステージに上がる頃にはその姿、格好の奇抜さゆえに新入生達は爆笑の渦に巻き込まれる。さっそくショートコントが始まり、学校生活に密着した話題がめまぐるしく展開される。随所に部員同士にしか見せないような素顔を披露してくれ、体育館内は一体化する。もう新入生もすっかり能高生の一員である。コントは品性を欠く内容が混じることもあるが、なかなかよく考え練習していると感心させられるものも多く見られる。

またここ数年の望ましい傾向といえるのが、新入生代表の言葉である。在校生代表をしのぐほどの優れた内容で、ここが伝統校の能代高校であることを再認識させてくる。頼もし

い限りであり、伝統になることを願う。

部活動説明会

入学して三日目の、午後に行われることが多い。

主に五校時に運動部の説明、六校時に文化部の説明が行われる。

各部の代表が、二、四分の持ち時間の中で、前年度までの成果を紹介しながら入部を勧誘する。ユニフォームに着替えて、ステージ上や一年生のいない体育館南側で練習メニューを披露したり、作品を持ち込んでそれを紹介するなど各部に工夫が見られる。

お目当ての部活動をもつ生徒がいる一方で、初めて見る部活動に興味を抱いたり、複数の部活動の中からどれを選ぶうかと悩み始める生徒など新入生ならではの表情が並ぶ。

なお生徒会執行部にとっては非常にづらい行事である。というのは四十ページ足らずとはいえ、各部から提出してもらった原稿を印刷し、それをホチキスで綴じて約三百五十冊のパンフレットを作るのは、部員が少ない上に、春休みという時間的制約、作業をする教室の寒さなども加わり、猛烈な忙しさでや々と間に合わせているという事情があるからである。

生徒総会

ゴールデンウィークの前後に行われ、生徒会活動全般について話し合われる場である。式次第は以下の通りである。

- ・開会宣言
- ・議長指名及び承認
- ・議事進行
- ・能高祭基本方針の発表
- ・閉会宣言



伝統は自らの力で築くもの。身近な問題を真剣に討論する。(正副議長、各委員会の代表者)

ステージ上に議長と副議長が並び、ステージ前に生徒会執行部員と十一の委員会の代表者が並ぶところから、会の進行が本格化する。

決算書の報告、予算書の説明、各委員会の前年度の活動内容の報告と、今年度の活動予定の紹介と続く。さらにその年の学校祭の基本方針が示され、一気に盛り上がりつつ閉会となる。予算や委員会の審議の最後にはそれぞれ学校への要望や質問を発言できる場面が設けられるが、学校の整備が行き届いてきたためか、生徒の関心が多様化しているためか、年々質問や要望が出されなくなり、平穩なまま会が閉じる。

大きな変化としては環境問題への対策をとったことが挙げられる。平成十五年から紙の無駄遣いを減らすために約二十ページの総会資料を減らし、ステージの壁をスクリーンとしてパソコンの画面をプロジェクターによって映し出す方法で会が進められるようになった。最終的に総会資料は予算資料で二ページのみとなった。

今後の課題としては、七十周年記念誌で述べているように「全校生徒の生徒会活動への関心の低さ、生徒会離れをいかに改善するか」ということや学級減に伴う収入減への対応をどうするかという二点が挙げられる。

壮行会

全県総体、硬軟式野球の県予選大会、東北

大会、全国大会に向けて行われるが、最近では文化部（新聞部、放送部、無線部、文芸部、囲碁・将棋部、弁論部）の生徒への壮行の場面も加わってきた。式次第は以下の通りである。



いよいよ決戦の時がきた。あとは平常心あるのみ。(全県総体壮行会)

- ・選手入場
- ・校長先生のお話
- ・生徒会長より激励の言葉
- ・応援団による激励
- ・校歌斉唱
- ・各部（同好会も含む）代表からの決意表明
- ・選手退場

対面式の並び方に、さらに一年生も加え、その中央部を選手達が行進するところから式

が始まる。その姿はりりしく、頼もしい限りである。また各部のユニフォーム着用での行進が定着し、臨場感が増した。

なおばらつきと内容の乏しさのあった決意表明は、その形式をある程度統一してからは、一般生徒にも理解しやすいまとまりのあるものとなっている。

今後の、各部及び卒業後の活躍に期待したい。

学 校 祭

おおむね六月下旬に、開会式、中夜祭、後夜祭、閉会式といった流れで準備や片づけを含めて約四日間で開催される。

各クラスで取り組むのは、HRデコ、壁新聞、映画、高墙ジャンピングである。

能高祭実行委員が主担当となって取り組むのは前夜祭、中夜祭、後夜祭、のど自慢部門、Mr.能高、Miss.能高である。

各部活動で取り組むのはクラブデコ、吹奏楽部、演劇部の発表である。

幾つかの部門の例年の風景を拾い上げてみると、

・「壁新聞」——題字の装飾に懲りすぎて、記事の内容がおろそかになったり、締め切り時間に間に合わせることが出来なくて大幅

に減点されてしまうクラスが少なからずあること

・「映画」——校地内外の見慣れた風景の中で展開される素人なりの工夫が見られる内容に、視聴覚室から大きな笑いと歓声があがること

・「フォークダンス」——足に痙攣を起こすほどになっても、休憩時間も惜しんで「マイムマイム」や「オクラホマミキサー」に合わせて踊り続けること
など、盛り上がりはいつもながらである。



▲奥が深いところが書いてあるよ。(新聞コンクール)



いらっしゃい。いらっしゃい。あいよ。(HRデコ)

大きく変わったのは、以下の三点が挙げられよう。

第一に、飲食物の扱いが難しくなったこと

である。O-157事件の影響で屋外での飲食物の販売を自粛した。

第二に、警備上の問題から、一般公開を一日にしたことである。一般公開終了後は、本校生徒だけによって行事を行うことになっているが、不審者が突然自転車で後夜祭会場に乗り入れてきたり、無人の教室でカラオケ装置を無断で使用する一般客が出たりと、学校だけの対応には限界が出てきた。

第三に、展示用パネルの購入である。平成十五年には長年の懸案であった、展示用パネルを八十周年記念事業の一つとして購入した。これで能代工業高校や能代第二中学校から借りて搬入、搬出する手間が省け、それでも人手の足りない学校祭準備が大いにはかどるようになった。

◀みなさんが喜んでくれば暑さもへっちゃらさ。(マスコット)



心静かにお茶はいかが。(茶道部)

ここ十年間のタイトルは以下の通りであるが、その年の風潮を反映していてなかなか興味深い。

三十六回 ETERNAL WINDー永遠

の風ー

三十七回 Over limitー限界を超えて

三十八回 能内革命

三十九回 天助我也

四十回 キングクリムゾンーそして時は刻み始めるー

四十一回 釈迦力

四十二回 青春ド真ン中！ー燃えろ人生！ー

四十三回 チュルギジャーみんなで楽しもうー

四十四回 VIVA!! 燃焼系ーばっポッV O

!! 能高式ー

四十五回

素+

例年、全校生徒の頑張りで成功裏に終わるものの、新たな課題もある。

第一に、六月に行事が集中しすぎて、準備の時間が十分に取れないことである。能高祭実行委員会が早めの準備を呼びかけてもそれまでの行事をおろそかにするわけにも行かず、学校祭の準備にエネルギーが集中するまでに時間がかかる。

そのせいで一年生に準備の仕方が十分伝わらず、展示内容がやや物足りないものになっ

ている。進学校ゆえの悩みでもあり、抜本的な解決は難しいのかも知れない。ただその反面、内容をリストラする工夫も求められているともいえそうである。例えば、装飾に関して美術部には多大な迷惑をかけてきており改善の余地がある。

第二に、校地周辺部の宅地化がすすむにつれ、騒音や振動に対する苦情が寄せられるようになってきたことである。今後はますますこうした傾向が強まることが考えられ、後夜祭の内容の変更が迫られそうである。



Tシャツはもちろん心意気もそろった。目指せ連続50回。(高埴ジャンピング)

第三に、モラルの低下である。フォークダンスの際に、一部の不心得な生徒のせいで女子生徒が不快な思いをすることが何度

も起こっている。

このように課題は多いものの、三年生のこの行事にかけるエネルギーのすさまじさは言葉では言い尽くせないほどであり、高校生活の良き思い出となっている。

体育大会

クラス対抗で行われ、競技種目は、以下の通りである。

- ・ 男女バスケットボール
- ・ 男女バレーボール
- ・ ソフトボール
- ・ サッカー
- ・ 女子ソフトテニス
- ・ リレー
- ・ 綱引き

平成九～十一年は六月に、平成七～八および十二～十四年は七月に開催され、主に平日の二日間の日程で行われる。開催時期が梅雨時と重なり、天候が不順で、屋外での競技の実施に大変苦労する。

クラスでTシャツをそろえ、一致団結して試合に臨む姿はすっかり定着した感がある。ただ非常に高価な衣類を購入する例も見られ、ある程度の制限を設けるようになっていく。また、大会が近づくとアリナスなどに練

習場所を求めるのも、ごく普通に行われるようになってきている。

なお生徒からの要望を取り入れ、ソフトボールには女子も参加できるようになったのが大きな変化である。



▲一発ホームランだ。いち、に、さん。(ソフトボール)



もっと上を向いて、綱を引いて！(綱引き)

高校生自主企画支援事業 (ハイスクールアイデアサポートプラン)

平成十二年に新たに導入され、以後十五年にかけて以下のような趣旨のもと行われた県の事業である。

「高校生の企画力・想像力・実践力に期待し、生徒会活動等の一層の活性化を図るようにす

る。また、生徒同士及び生徒と教師の人間関係を深め、意欲的で充実した学校生活を送ることができるようにする。更に、地域社会との連携を密にし、開かれた学校づくりを推進する。」

これを受けて、生徒会執行部が中心となり、プロジェクトチームを編成して対応した。

十二年 英国グreshamスクール（以下、グ校）とのテレビ会議システムを利用
しての交流

初年度は留学生の交流がある、グ校とテレビ会議システムを利用して国際交流を図ることと意見がまとまり、作業を進めた。

最初に国際交流やパソコン操作に関心のある生徒が集まり、「能代高校・英語版ホームページ」の作成をした。既にあつた本校のホームページを英訳するのが主たる作業だが、英語を得意にしている生徒でも手こずる場面の連続であつた。

完成後は、「英語のナレーションによる学校紹介のビデオ」の制作や両校の生徒同士のメール交換を行った。ビデオのナレーションの英文や自己紹介の英文作りの苦労は、ホームページの際と変わらなかりの時間を要した。ビデオは夏休み中に短期留学に來た、ダニエル君に渡してグ校で見てもらつた。

このような作業の中で、機材の試験運転を

かねて六月三十日視聴覚室でグ校とテレビ電話をつないだ。機材は企業が国際会議の際に使用する場面が主に想定され、本体を借りるだけで一日あたり五万もする代物だ。購入すれば二百二十万円もするという。業者のアドバイスを得ながら、接続し、グ校の電話番号をリモコンで入力した。グ校にもあらかじめ同じ機種をレンタルしてもらっている。つながった瞬間、一斉に歓声が上がり、その成功を喜び合つた。簡単な自己紹介をしてこの日の交信を終えた。こうして少しずつ互いの理解を深め合う一方、スタッフ会議を何度も重ねた。

十月四日、今度は第一体育館のステージの壁をスクリーンとして本番に向けての交信をこれまでのメンバーで行つた。学校生活や伝統行事に関するビデオを送ろうと試みたが、音声が届かなかつた。また、体育館全体にテレビ電話の音声を届けるための方策も次回に向けた課題となつた。

十一月二十二日、第一体育館に全校生徒が集まり午後四時から英国やグ校、テレビ会議システムについての学習会を開いた。そして午後五時、いよいよ交信を開始した。校歌、折り紙の紹介、けん玉競技、アンケートについての話し合い、エールの交換、長縄跳び大会などで互いの文化的な違いを感じながら会話を楽しんだ。グ校には校歌や応援団がない

こと。晩ご飯を学校の食堂で食べた後に、さらに学習してから寮に戻るなど想像も出ないような発言が続いた。予定時間はあっという間に過ぎた。

こうして予定した活動を終えた結果、生徒たちはグ校を通してイギリスという国の社会システムや国民性を知るきっかけとなったようである。

残念ながらこの事業に対する取り組み方が、本校とグ校では大きく異なり、グ校の負担が大きいことを考慮して、この取り組みはこの年度で取りやめることにした。



▲もちやのお玉を披露
日本のけん

◀スクラムシャトルの生徒たち



十三年 作品集「松陵健児からのメッセージ」
全校生徒に作品を募集し、一つの作品集にまとめた。

作品募集にあたっては、全校生徒が取り組めるようにジャンルを選定し、最終的に十二部門（①絵画、②書、③写真、④英文、⑤短歌、⑥俳句、⑦随想、⑧詩、⑨学級日誌、⑩小論文、⑪読書感想文、⑫手紙）に決めた。七月上旬に募集要項の説明をし、夏休み中に作品を仕上げ、夏休み明けに提出してもらった。

九月からは担任、副担任の先生方に一度目を通していただき、幾分かの推敲を経た上で、各自の作品を仕上げた。内容は先生たちの期待以上のものが多く、夢や希望、悩みが綴られたものや、教育論や環境問題、SF小説といったものまで多彩であった。

十月以降は編集作業に取りかかり、完成したばかりの情報処理室で、一年部と生徒会執行部員が手分けして各クラスごとにワープロ入力した。なお写真での掲載になる、絵画、書、写真部門の作品はワープロ入力の対象からは除外した。パソコンに多少の心得はあるものの、不慣れゆえに入力作業はかなりの困難を伴い、なかなか作業がはかどらなかった。また形式を間違えて理解したまま入力し、修正するのにも手間取ったりもした。

二月上旬にやっと、各部門ごとに入力データをまとめあげた。同中旬には製本に関して詰めの相談をしながら、最終原稿を業者に届けることができた。

三月初旬、作品集が全校生徒に配られた。作品を目にした時、教室にはクラスメイトや先輩後輩の考えや技能の高さに感心したり、意外な一面を見ることで笑いや驚きの声があった。

同じ空間にいながらなかなか伝え合うことのない内面の奥深くまでを表現し、それを互いに認め合うことができたという意味で能高生にとっては希有の良い機会となった。

十四年 ソーラーカーラリー選手権

ソーラーカーのキットを各クラスに一台ずつ配り、規定内での改造を認め、完成車を持ち寄ってクラス対抗戦を行った。単独で行うには時間的な余裕がなかったために、学校祭の催し物の一つとして開催した。またクラスごとに応援フラッグを作成し、芸術的センスに優れた生徒の活躍の場も提供しつつ、当日の会場の雰囲気大いに盛り上げてもらった。競技会場は第一体育館横とし、アスファルトにコンパネを敷いて砂による抵抗をなくすとともに、出来るだけ平らな場所で競技できるように工夫した。

六月二十三日当日は曇り空ながら車が動くくらいの日射があり練習の後、各クラス自慢の車が、予選に臨んだ。ソーラーパネルが生み出した動力を車輪に上手に伝えるように太い輪ゴムを利用した力学のセンスにあふれた

車や、ボディラインが印象的でデザイン性あふれる車などそれぞれ作り手の愛着あふれるマシンばかりである。



うまく走ってくれるか？
緊張の一瞬

いざ走り始めると、ゆっくりだが直進する車もあれば、スピードはあるがコースアウトする車、ほとんど前に進むことができない車など、テスト走行では予想しなかった事態に参加チームからは歓喜や落胆の声が交錯し、応援に駆けつけた生徒達や保護者達からも懸命な声援が送られていた。

「工夫を重ねた甲斐があった」、「もっと晴れていれば自分たちが勝利できた」、「工作には結構自信があったのに」などの言葉を残し競技は無事に終了した。

十五年 第一回「講演会」

第二回 パネルディスカッション「熱

く語ろう！能高生徒の現

況・未来を」

前年度の反省をふまえ、新たな計画をたて

て事業に取り組んだ。

一回目は七月十五日（第二回考査の最終日の午後）に、当時国際教養大学長予定者の中嶋嶺雄氏から「学んだ英語生かせる教育を」、山本組合総合病院院長の大淵宏道氏から「医療の福祉と現状」喫煙は最も有害、NHK高校野球解説者の山田勤氏から「スポーツのメンタル面」練習の積み重ねが作る」と題して御講演していただいた。生徒は各自、興味のある分野を選び聴講した。

中嶋氏は国際社会の変動と、その中の言語の重要性や日本の英語教育の弱点を指摘した。その上で「授業は例外なく英語で行われること」や「三次次には留学も義務づけること」といった国教大の教育方針の紹介や受験を呼びかけた。

大淵氏は、生活習慣病予防のために必要なことを挙げ、医療の現状を分析しながら問題点を指摘した。

その中で「一 生活リズムの確立」、「二 飲酒、喫煙の禁止」、「三 高血圧症や高脂血症といった危険因子を認識」することなどの生活習慣病予防のポイントや、「日本は世界一安く世界一良い医療がなされていること」、「今後も医療機器の進歩や薬の発明などが期待される」といった説明があった。

山田氏は、弟・山田久志さんや自分自身の体験談からスポーツにおけるメンタル面の重

要性を指摘した。

弟さんの生き方から感じることをしては、「諦めない信念が大事」、「野球に限らず、明確なビジョンを持って立ち向かえ。地味な毎日の練習の積み重ねがメンタルの強くなる要因だ」などと紹介した。また自身の体験からは、「目標を達成するまでのプロセスが大事である。精神的な面は心だけではない。練習の積み重ねが作るものと確信している」などと強調された。

いずれも各方面のスペシャリストの話だけに、生徒たちは考査の疲れも忘れ聞き入っていた。

二回目は十月七日（第三回考査の最終日の午後）に、パネラーは地域代表として大塚和行氏、同窓会代表として佐藤浩嗣氏、PTA代表として富樫眞喜子氏をお招きし、生徒代表として藤田大夢君、松岡恵子さんにも加わってもらい討議した。コーディネーターは田口琢央先生にお願いした。

第一部は「高校生活について語る」、第二部は「能代高等学校に期待すること」がテーマである。

第一部ではパネリストから自己紹介をかねて高校時代について語ってもらった。

三人の先輩方からは、「昔はバンカラなところ、たくましさがあった」、「今の生徒は目標が明確なので朝学習や小テストなどに、在



立ち止まって日々の生活を考えるきっかけを与えてくれたパネルディスカッション

学当時の私より意欲的に取り組んでいると思う」「十里強歩は自分の原点。あの苦しみを克服した自信が何でも乗り越える力になった」「など先輩ならではのお話があった。また在校生のパネリストからは、「勉強しかないう高校というイメージだったが、入学してみるといい意味でラフな部分もある」「入学当時、勉強面で不安を感じていたが、文化祭を機に学校が楽しくなった」などと勉強面との関わりで話が盛り上がった。

さらに第二部では「いろいろな思いを持った人がいるのを忘れないでほしい。助け合いながら自覚を持って生活することが必要。今何をすべきかを考えて高校生活を楽しんでほ

しい」「我々が解決できなかった問題に貢献してくれる大人になってほしい」「人生の目的、目標を持って能高で学べる有り難さをかみしめ、応えていってほしい」等の激励の言葉を頂くなどして会を閉じた。

このような講演・討論を通じて、学校内部や在学当時には気づかないことを諸先輩から指摘していただき、在校生にとっては日々の学生生活の活力となる知的刺激になった。

一方、案内・接待、司会、会場準備、お礼の言葉を述べる係などを担当した生徒会執行部の生徒は各自の役割分担を果たして大いに自信をもったようであった。

役員選挙

九月上旬に立候補者の受付、下旬に選挙が行われている。生徒会長、副会長になかなか立候補者が現れず、人選が難航する年もあったものの、近年は積極的に生徒会活動に参加する生徒が現れている。また女子の立候補者も出てきて活気がある。

選挙は信任投票の形式で行われることが多いが、複数の立候補者が出た時には、登校時にたすきがけをした立候補者による選挙活動が生徒昇降口で展開され、一般の選挙活動を彷彿とさせる場面も見られた。

なお立会演説会では奇をてらうパフォーマンスはほとんど見られない。立候補者の、生徒会活動に地道に取り組もうとする熱意や、立候補までの経緯が語られる。

その他

・平成十二年生徒総会で、スキー部、女子剣道同好会、点訳同好会、生花同好会、アニメーション同好会、フォークソング同好会、映画研究会、クイズ研究会の廃止を決定した。

また軟式庭球部を男子ソフトテニス部、女子テニス部を女子ソフトテニス部と呼称を変更した。

・平成十四年生徒総会で女子バレー同好会が女子バレー部に昇格した。また女子バスケットボール同好会が発足した。

・平成十五年女子の冬の黒タイツの着用が許可された。今後女子のセーターの着用についても検討がなされている。

・平成十五年五月から生徒会執行部用のパソコンと大型プリンターを購入し、各種の活動に利用している。